

## 令和元年度 研究評価結果報告書【畜産試験場】

### 1 概要

試験研究開発の一層の効率化と研究ニーズに即応した新技術の早期開発を図るため、「福井県農林水産試験研究評価実施要領」および「福井県農林水産業活性化支援研究評価会議設置要領」に基づき、研究課題の選定、進捗状況と進行管理、研究成果および研究終了後の成果の普及状況ならびに研究機関としての活動状況等について評価を受けた。

(1) 開催日時 令和元年8月22日(木) 書面開催

(2) 開催場所 畜産試験場

(3) 評価会議出席者

評価委員

高橋 清也 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門  
企画管理部長

三浦孝太郎 公立大学法人福井県立大学生物資源学部 准教授

山崎 洋子 NPO法人 田舎のヒロインズ

川口 孝誠 福井県第一食肉協同組合 理事(株式会社カワグチ 社長)

立尾 清美 芦原温泉女将の会副会長(芦原温泉白和荘女将)

杉本 雅和 福井県農林水産部中山間農業・畜産課 課長

### 2 評価結果

書面開催とした。事前に評価委員に資料を郵送し、評価をしていただき、開催日である8月22日までに評価票を返信していただいた。

(1) 研究課題別評価

追跡評価：1 課題 B 評価

研究課題別の詳細は、研究課題別評価結果に記載し、今後の研究開発の推進、成果の普及方法等に活用する。

### 3 研究課題別評価結果

#### (1) 追跡評価

1	研究課題	乳牛への飼料用粳米（イネ SGS）多給技術	総合 評価	B
	研究期間	平成24年度～平成26年度		
	研究目的 および必要性	飼料用粳米は、輸入穀物に代わる国産飼料資源として期待され、その利活用に関心が高まっている。しかし、飼料用粳米の乳牛への給与方法や給与効果は十分に明らかにされていないため、酪農での利用はあまり進んでいない。そこで、県内で多く占める分離給与方式で、粳米を多給し、低コスト化を図る技術について検討する。		
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・濃厚飼料の27%は妥当な数字が示されていると思われる。酪農家での飼料設計においては、より具体的なSGSの品種、破碎や調整方法、給与飼料原料比率、飼料のTDNやCP含量の情報も必要と考える。</li> <li>・飼料費の削減には一定の効果が認められ、十分に期待できる技術だと思うが、さらなる改善か新技術も必要か。</li> <li>・鳥獣害については最も気を付けなければならない問題。対策を早急に検討されたい。</li> <li>・健康なエサを与え健康な牛を作り、その牛の肉や乳を食べて人は健康で生きられる。研究の基本にこのことを忘れないでほしい。この点において、稲わら飼料の研究開発はとても大切だ。</li> <li>・輸入飼料に頼らず、県産飼料で代替し、費用が低減しているということは効果があったと思われる。継続して普及努力をしてもらいたい。</li> <li>・稲作農家の転作にも貢献でき、現地効果の期待度は高い。乳牛以外の畜種でも安価な飼料として普及できないか検討してはどうか。</li> </ul>		